

令和6年3月14日

足立区立桜花小学校
校長 笹原天平 様

足立区立桜花小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 尾山 好二

令和5年度 学校関係者評価書

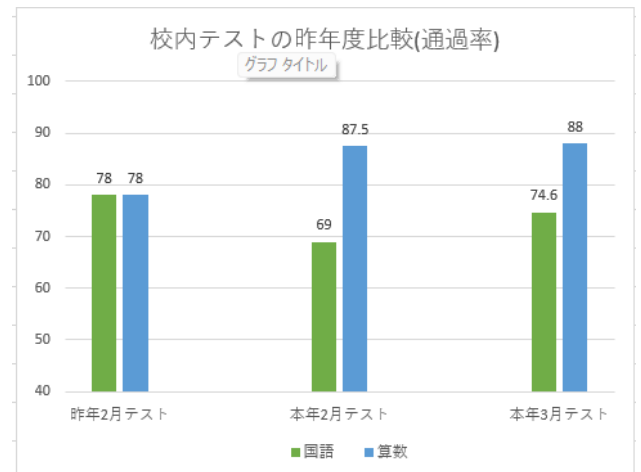
1. 自己評価書全般について

重点的な取り組み事項－1 基礎的・基本的な学習内容の定着

達成度◎（十分に達成）

区学力調査(4月実施)結果は、**通過率全体80.8%、(国語77.3%、算数84.3%)**で、桜花小学校としては**昨年度に続き通過率80%以上を達成**した。昨年度と比べ(全体78.1、国語78.3、算数77.6)、特に算数科で6.7%の大幅な向上が見られた。校内研究で算数科の研究を進め、足立スタンダードの徹底を目指してきたほか、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として真摯に基礎学力の定着を図ってきた状況を確認することができる。

区学力調査(2月校内実施分)結果では、全体78.25%(前年比+0.25):国語69(-9.4)、算数87.5(+9.8)の通過率で、昨年度比で2教科全体としては0.25の微増ではあるものの特に算数科では大きな飛躍が見られた。これは、毎週4回(30分)程度継続実施した放課後の「桜花タイム」で、全員理解するまで徹底した起訴内容定着を図った効果が現れたと実感している。また国語については大幅な減少となったが、本年度3年生以上に週あたり1時間増の特設時間を設け、全学年の算数科単元の終了を早めさせることができたことにより、2月8日後以降の本来算数科授業週あたり5時間を当該学年の国語及び算数科の振り返りと



理解定着に充てることができた。まだ本年度校内2月テストの実施が2月5日であり、その校内学力向上策の成果が発揮できていないことから3月11日に別年度の区学力テストの校内実施を行ったところ下記のように74.6(昨年度-3.4)まで国語も通過率を伸ばすことができている。算数は微増であるものの、年度末に全学年が振り返りにより学力定着を十分に設定した一定の効果を確認することができている。これにより、時期は1か月程度遅れたものの昨年度2月テストと比較すると2教科全体で81.3%通過率となり、本校としては初めて4月テスト前に通過率80%を超える学力定着を確認することができている。学校全体として、重点的な取り組み事項である「基礎的基本的な学習内容の定着」については十分な成果を確認することができる。今後も1割強の児童に感じられる前年度までの学習内容の未定着部分解消と、基礎・基本の学力の確実な定着を目標として指導をお願いしたいと同時に、学校教職員の真摯な姿勢と児童の努力を認め、励ますなど家庭学習の重要性も保護者に自覚してほしいと考える。

重点的な取組み事項－２ 思いやりと自分が大切にされている実感ある学級・学年づくり

達成度○（達成）

「思いやりと自分が大切にされている実感ある学級・学年づくり」の達成に向けて、学校全体で「ほかもほか言葉」でいっぱいの子供の活動を全学年で軸として推進してきた。どの学年の教室前と廊下にもそれぞれの子供の言葉で、友達の思いやりの行動や自分がされて嬉しかった場面と感謝の言葉が多数掲示されており、相互に認め合い尊重し合ったりできる場を意図的に創り上げている様子を確認することができる。例年は同様の取組みを10月時期に実施していたが、本年度は4月より通年を通して進めてきた成果が、本年度の学校関係者評価アンケートでも数値として確実に表れていることが認められる。これは児童の変化を保護者も気付いている証である。

「道徳授業地区公開講座」での授業の様子や学校からの道徳教育に関する取組みの説明等から、道徳教育の充実ぶりが感じられる。さらに、教師の人権感覚を高める取組みやいじめ対策委員会による取組みも充実してきている。しかしながら登校しぶりの児童が数名いるという事実については重く受け止めていただきたい。原因は学校生活ばかりではないのかも知れないが、不登校から教室に復帰できた児童もいることから、更に教師と周りの友達からの関わりを見直し、今後も児童の思いやりの心を育てるという視点から、引き続き児童への心の教育の充実と指導に当たっていただきたい。

重点的な取組み事項－３ 心身共に健康な児童の育成

達成度△（達成せず）

昨年度から継続して、重点的な取組み事項に掲げられた。4年間に及んだコロナ対応が終わり、最も重要な項目の1つであると認識している。学校は、・運動朝会、体育授業等様々な運動を計画的に行う機会の設定・・自己の記録履歴や学習カードを活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。・体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭や地域とも連携した取組の推進。運動月間ごとに学校記録の更新の機会を設定等の複数の具体的な取組みを通して推進してきている。但し、達成を示す具体的な数値が限定的で、校内対応策が具体的な児童の健康増進にどの程度寄与できているのか達成度を評価しにくい側面がある。今後更に各種運動能力の向上を図り続けていくために、子供たちが校庭で元気よく遊ぶ姿が見られるよう、校内の取組みを進めていただきたい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

今年度も、桜花小学校の児童は学習面や生活面において大変落ち着きが見受けられます。その姿は運動会や展覧会等の学校行事だけでなく、地域での各行事でも同様に見受けられました。特に多数の児童が地域活動にたくさん参加してくれました。今後も明るく素直で落ち着きのある校風を継続できるよう願います。

開かれた学校づくり協議会としても、本年度から例年通りの活動ができるようになってきており、学校と協力し、児童の姿を見守る機会を増やすことができている。次年度以降も開かれた学校づくり協議会として、保護者、地域の皆様と連携を深め、学校との協力のもと、この検定受検の取組みを継続、発展させていきます。

3. その他

教職員は、皆熱心に職務遂行に取り組んでいる。児童は明るく素直で、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応し早期の課題解決に努めている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、各町会をはじめ地域も大変協力的である。

重点取組事項に関しては、基礎学力、道徳心、体力向上全てに関して家庭の環境が大きな力をもつことを、保護者に理解していただき、家庭の力の向上を求めます。